

先ごろ出張先の台湾でセミナーに参加し、地元テレビ局の取材を受けた。質問の多くが中国と台湾の関係、日本のいわゆる「台湾有事」への見方についてだった。

# 激動期に問われる情報伝達の質



東京大学教授

阿古 智子

「極化」は世界各地の民主主義国家で見られる現象となつてゐる。ソーシャルメディアの爆發的な普及がそうした傾向をより顕著にしてゐるが、その結果、とにかく自らの立場を代表してくれる人物を支持しようと、民主的な価値観を軽視する風潮が生じてゐる。若者が政治参加に消極的なのも、蓄積した社会矛盾が不平等な構造を固定化し、既存の政党や政治勢力の力ではその変革が難しいという現実を前に、失望感が高まつてゐるからではないか。

政治家、官僚の言葉

はない。戦う覚悟だ」と述べた。麻生氏の発言は台湾でも話題になり、私も多くの質問を受けたが、私自身、麻生氏が「誰が、どのような覚悟を持つべきだ」と述べているのかがつかめず、質問にどう答えていいかわからなかつた。

例示は、どの政党も中国をめぐる発言に慎重になつてゐる様子がうかがえる。ウクライナ・ロシア戦争が泥沼化しており、国民の間には「台湾と中国の間でも戦争が起つるのでないか」という不安が広がっている。「某政党から総統が選ばれれば戦争が起つる」という声を耳にすることもあるが、こうした情報は台湾の人々を混乱させるために、意図的に流されている可能性もある。明らかな偽情報や未確認の情報を真実だと信じている人も少なくない。

はない。スパイ活動や内通など実際には不要な疑いまでかけざるを得なくなり、結果的に言論活動を制御してしまうこという側面もある。そのような状況で「警察がすぐに飛んできて調べるから、おち發言できない」「言動に気をつけなければという心理が働き、自己規制することも増えている」という声も聞いた。台湾の現政権が言論を統制していると批判的に見ていている人たちもいるのである。言論活動が自由で活発な台湾では、日々、異なる意見を持つ人々

の間に激しい論戦が繰り広げられており。特に、ソーシャルメディアの空間には、あまりにも多くの専門家のチェックを経ていなければ利害が得られるとして極端な見方が広まりやすい。アルゴリズム（検索エンジンを用いた計算方法）によって推薦されるサイトを見ていると、自分が関心を持つテーマや論者ばかりに注目し、狭い範囲内で世界観を構築してしまう。対立陣営の主張はたいてい心地よくは受け入れられないものだ

か全く理解しようとせず、あるいは反論のための材料を得られればいいと、表面的な部分だけをつまみ食いしてしまうこともあるかもしれない。こうした姿勢では賣図せず議論の内容を誤解してしまうこともあるだろうし、反対することそのものが重要な目的となり、建設的な議論ができなくなる

建設的な議論ができます

性も視野に多くの動きがある中で、民主主義陣営が民主主義の衰退を阻止できなければ、混乱を極める言論空間はさらに危機的な状況に陥るだろう。「有事」の可能性をどう捉えるか、万が一の「有事」の際にどう対処するかについて深い議論ができるはずがない。

8月7日から9日まで台湾を訪問し、蔡英文總統らと会談した麻生太郎自民党副総裁は、台北市内の講演で中国を念頭に、「今ほど日本、台湾、アメリカなどに、抑止力の覚悟が求められている時代

場合もあるだろう。政府としては、国民に不安を煽るような情報発信も慎まなければならない。

しかし民主主義における合意形成は、国民と粘り強く対話を続け、各分野で専門的な見地から検証を行い、地道に国際社会の理解を得ながら行わなければならぬ。多くの権限を有する政治家、官僚はよりわかりやすい言葉で、より具体的に問題を特定しながら議論を深められるよう、コミュニケーションの質を高める必要がある。

例示は、どの政党も中国をめぐる発言に慎重になつてゐる様子がうかがえる。ウクライナ・ロシア戦争が泥沼化しており、国民の間には「台湾と中国の間でも戦争が起つるのでないか」という不安が広がっている。「某政党から総統が選ばれれば戦争が起つる」という声を耳にすることもあるが、こうした情報は台湾の人々を混乱させるために、意図的に流されている可能性もある。明らかな偽情報や未確認の情報を真実だと信じている人も少なくない。

はない。スパイ活動や内通など実際には不要な疑いまでかけざるを得なくなり、結果的に言論活動を制御してしまうこという側面もある。そのような状況で「警察がすぐに飛んできて調べるから、おち發言できない」「言動に気をつけなければという心理が働き、自己規制することも増えている」という声も聞いた。台湾の現政権が言論を統制していると批判的に見ていている人たちもいるのである。言論活動が自由で活発な台湾では、日々、異なる意見を持つ人々

の間に激しい論戦が繰り広げられており。特に、ソーシャルメディアの空間には、あまりにも多くの専門家のチェックを経ていなければ利害が得られるとして極端な見方が広まりやすい。アルゴリズム（検索エンジンを用いた計算方法）によって推薦されるサイトを見ていると、自分が関心を持つテーマや論者ばかりに注目し、狭い範囲内で世界観を構築してしまう。対立陣営の主張はたいてい心地よくは受け入れられないものだ

か全く理解しようとせず、あるいは反論のための材料を得られればいいと、表面的な部分だけをつまみ食いしてしまうこともあるかもしれない。こうした姿勢では賣図せず議論の内容を誤解してしまうこともあるだろうし、反対することそのものが重要な目的となり、建設的な議論ができなくなる

建設的な議論ができます

性も視野に多くの動きがある中で、民主主義陣営が民主主義の衰退を阻止できなければ、混乱を極める言論空間はさらに危機的な状況に陥るだろう。「有事」の可能性をどう捉えるか、万が一の「有事」の際にどう対処するかについて深い議論ができるはずがない。

8月7日から9日まで台湾を訪問し、蔡英文總統らと会談した麻生太郎自民党副総裁は、台北市内の講演で中国を念頭に、「今ほど日本、台湾、アメリカなどに、抑止力の覚悟が求められている時代

場合もあるだろう。政府としては、国民に不安を煽るような情報発信も慎まなければならない。

しかし民主主義における合意形成は、国民と粘り強く対話を続け、各分野で専門的な見地から検証を行い、地道に国際社会の理解を得ながら行わなければならぬ。多くの権限を有する政治家、官僚はよりわかりやすい言葉で、より具体的に問題を特定しながら議論を深められるよう、コミュニケーションの質を高める必要がある。